

授業改善のポイント…ア（主体的な学びの喚起） イ（文章全体の構成を把握して読む場面） ウ（自分の考えを明確にする場面） エ（交流タイム） オ（評価の工夫）

第一次		第二次				第三次			
言語活動全体の見直し		教科書教材を目的を持って読む				自分の表現に適用する			
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
<p>★学習課題を知り、学習の見直しを持つ。</p> <p>自分が好きな伝記の本から「心ひかれた一言」を紹介し、「この人のここがすごいでショー」を開こう。</p> <p>・教師のモデリング（教師が取り上げた人物についての「この人のここがすごいで表」の紹介）により学習の見直しを持つ。</p> <p>・モデリングを基に、単元の学習の流れと「評価をするときに基とするもの」を確認する。</p> <p>★伝記を読んだ経験や感想を発表し合い、伝記を読むことに興味を持つ。</p> <p>主体的な学び</p> <p>目的のある交流</p>	<p>★「百年後のふるさとを守る」を読み、初発の感想を交流する。</p> <p>目的のある交流</p> <p>★範読を聞いて想起した、これまでの自分の生活や生き方（関心あること、今の生活で大切にしてきたこと、将来のことなど）を書きまとめる。</p>	<p>★「百年後のふるさとを守る」を読み、文章構成を確認し、内容の大体をつかむ。</p> <p>・文章のまとまりが4つに分かれていることを確認する。</p> <p>全体把握して読む</p> <p>・文中に「出来事を語る部分（物語のように表現されたところ）」「事実の説明」「筆者の考え」が書かれていることを確認し、伝記の特徴をつかむ。</p> <p>全体把握して読む</p>	<p>★「百年後のふるさとを守る」から、「心ひかれた一言」を見付ける。</p> <p>・自分の生活や生き方との関わりを意識しながら、「心ひかれた一言」を見つける。</p> <p>・なぜその一言を取り上げたか、根拠となる部分を明らかにする。</p> <p>全体把握して読む</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p> <p>★「心ひかれた一言」とその根拠となる部分について、同じ言葉を選んだ友だちと意見交流する。</p> <p>目的のある交流</p>	<p>★「百年後のふるさとを守る」を読み、自分が選んだ「心ひかれた一言」と、その根拠をまとめた内容を基に、自分の生活や生き方について振り返る。</p> <p>・自分が選んだ「心ひかれた一言」と、自分の生活や生き方を関係付けて考える。</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p> <p>★「心ひかれた一言」とその根拠となる部分から、自分の生活や生き方について考えたことを、ペアで意見交流する。</p> <p>目的のある交流</p>	<p>★「儀兵衛のここがすごいでショー」を開く。</p> <p>・「心ひかれた一言」を紹介するとともに、その根拠や自分の生活や生き方との関わりから考えたことを交流し合う。</p> <p>目的のある交流</p> <p>・「儀兵衛のここがすごいでショー」をして、考えたことや思ったことを書く。</p> <p>★友だちの発表から、広げ深めた考えを記述し、全体で交流する。</p>	<p>★伝記を読んで、取り上げた人物の「心ひかれた一言」を選ぶ。</p> <p>・なぜその言葉が心に残ったのか、根拠となる部分を明らかにする。</p> <p>・自分の生活や生き方との関わりから考えをまとめる。</p> <p>全体把握して読む</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p>	<p>★取り上げた「心ひかれた一言」を基に、「この人のここがすごいで表」を作る。</p> <p>・第二次の学習を基に、その言葉が心に残った根拠の部分をまとめる。</p> <p>・被伝者の思いや生き方について自分が考えたことをまとめる。</p> <p>・自分の生き方を見つめ直して考えたことを書く。</p> <p>全体把握して読む</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p>	<p>★「この人のここがすごいでショー」をグループで開く。</p> <p>・「この人のここがすごいで表」を基に、「心ひかれた一言」、その根拠となる部分を紹介し合う。</p> <p>・取り上げられている人物の生き方や、自分の生活や生き方について考えたことを話し合う。</p> <p>目的のある交流</p> <p>★話し合いで深まった考えを書きまとめる。</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p>	<p>★代表児童の「この人のここがすごいでショー」の紹介を聞く。</p> <p>・「心ひかれた一言」と根拠となる部分の関連や、自分の生活や生き方をどのように見つめ直しているか、確かめる。</p> <p>★読んだ伝記や友だちの「この人のここがすごいで表」を基に、自分の生活や生き方について考えたことをまとめる。</p> <p>自分の考えを明確にする場面</p> <p>目的のある交流</p> <p>読んでみたい伝記を考える。</p>
単元を貫く言語活動：「心ひかれた一言」を「この人のここがすごいでショー」で紹介する									
評価の工夫									

日常的な言語活動（伝記を読む）

視点を決めて、伝記の本を決めて読む

「松井 秀喜さん」の「う」がす「う」で表

五年

組 名前 (

)

「心ひかれた一言」

他人と自分を比較してはいけない。
自分は自分のできることに集中したほうがいい。

人物のかんたんな紹介

- ・一九七四年六月十二日石川県生まれ
- ・プロ野球・大リーグで大活やく
- ・愛しうは「ゴジラ」
- ・高校時代は甲子園に四回出場し、ホームラン四本を打つ
- ・プロ野球選手として、ホームラン王、打点王の二冠に輝く
- ・国民栄よ賞を受賞

「心ひかれた一言」を選んだ理由

(その人がしたこと、考え方を入れて書こう)

私は、松井秀喜さんのこの一言に心ひかれました。それは、彼の最後の甲子園。五打席連続敬遠をされ、一度もバットをふることなく敗退した試合。打たせてもらえなかつたくやしさを相手にぶつけることなく、バットを静かに置き、一塁へ走った姿は、まさに、今自分ができることに集中し全力をつくす姿であると思つたからです。

人物の絵



今の生活や生き方とかかわらせて考えたこと

私は、自分のすることに自信が持てないタイプで、すぐに不安になり、周りを気にしてしまいます。人と比べて自分がうまくできずに落ちこんでれつ等感を感じることが多いです。

他人がしていることや自分に対する評価は気になるけれど、自分が今すべきこと、できることに集中してベストをつくすことが大切だと思ひました。このことが、今の自分のすべてなのだと思ひ止め、周りを気にしすぎず、自分らしくがんばればいいと思ひました。

第5学年 国語科 学習指導案

1. 本単元で付けたい力

自分の考えを明確にしながら読む力

(読む過程において、文章全体の構成を把握し、自分の知識や経験などと関係付けて、自分の立場から考えを明確にしながら読むことができる力)

2. 単元名 「この人のここがすごい表」で人物紹介しよう

(「百年後のふるさとを守る」光村図書5年)

3. 単元目標

伝記の特徴を理解し、伝記に描かれた人物や出来事、筆者のものの見方・考え方をとらえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。【読むこと】

4. 目指す児童の姿

国語への 関心・意欲・態度	読むこと	言語についての 知識・理解・技能
伝記を読んで、自分の生活や生き方について考えようとしている。(自分の考えの形成及び交流)	自分の生活や生き方との関わりを意識して全体を通して読み、儀兵衛の生き方について、根拠を明らかにしながら自分の考えを持つことができる。(説明的文章の解釈)	伝記の特徴をとらえ、文章の効果や構成について理解している。

5. 本単元における言語活動

「自分の考えを明確にしながら読む力」を付けていくために、本単元では「自分が取り上げた人物の『心ひかれた一言』を選び、それを紹介する『この人のここがすごい表』をつくる」という言語活動を位置付ける。領域を「読むこと」とし、具体的には取り上げた人物について、児童の考えに基づいてエピソードを選択して紹介し、人物の行動や生き方と、自分の知識や経験との共通点や相違点を見つけ、共感するところや取り入れたいところなどを「この人のここがすごい表」にまとめる活動を中心に展開する。

本単元の学習に入る前に、「〇次 言語生活と学びの接続」として、伝記の読書を開始する。伝記の読書をする中で、児童が関心を持った人物を取り上げて話題とし、考えたことや思ったことについて自由に話し合う場を設けることで、学習に対する興味・関心・意欲や課題意識を高めておく。また、単元の学習前に「言語生活と学びの接続」をしておくこと、学習後も継続して伝記の読書を行うことで、児童の読書生活と学習内容がつながる。そのことで国語科の学習が今後の言語生活へ転用可能なものになり、学びの有用性の実感が増すと考える。

第一次では、指導者が取り上げた人物の伝記を基にした「この人のここがすごい表」を提示する。第三次で行う活動のモデルを示すことにより、児童が学習に見通しを持ちやすくする。このことにより一貫した目的意識を児童が持つようになり、主体的な学びが展開できるようになると考える。また、モデル提示のときには、次のような言語意識も持たせておく。

- ①相手意識「クラスや学年、他の学年の友だち、学校の先生方に見てもらおう。」
- ②目的意識「伝記からとらえた『心ひかれた一言』を紹介しよう。そこから自分が考えたことを知ってもらおう。」
- ③方法意識「伝記を読んで考えたことを紹介する。」
- ④評価意識「(「評価をするときに基とするもの」を基に) 伝記の特徴をとらえているか。自分の生き方と関係付け、どのように考えたか。」

第二次では、文章全体の構成をとらえるために、まず、文中に「出来事を語る部分(物語のように表現されたところ)」「事実の説明」「筆者の考え」の部分が出てくることに気を付けながら読み、伝記の特徴をつかむ。また、文章全体をとらえ、「心ひかれた一言」を見つけるためには、児童の生活や生き方(関心あること、今の生活で大切にしてきたこと、将来のことなど)と関連付けて読み進めることが大切である。そのことを意識し

ながら「心ひかれた一言」、その根拠となる部分を読み取っていく。そして、それらから自分の生活や生き方を関係付けて考える学習を行い、「儀兵衛のここがすごいで表」にまとめることにより、本次の学習のまとめを行うとともに、第三次への学習への接続を円滑にする。

第三次では、これまでの学習を基に、伝記を読んで取り上げた人物について「この人のここがすごいで表」を作るという言語活動を行う。これまでの学習を基にして、「心ひかれた一言」を選び、その根拠をまとめて、自分の生活や生き方について振り返る。この活動により、第二次で身に付けた読む力を自覚的に活用することができる。また、児童が作った「この人のここがすごいで表」を紹介し合うことで多くの人物の生き方に触れ、考えを広げ深める機会を設けるとともに、「もっと伝記を読みたい」という意欲を持たせ、日常の言語活動の充実を図りたい。

6. 交流について

交流には、「気付くため」「深める（共通点・相違点を見つけて考える）ため」「別の視点で考えるため」「決めるため」「自分の考えを再構築するため」などの、様々な目的がある。その目的を児童が自覚していないと、学習効果は表れてこないと考える。そこで、本単元では、交流を行う際、その時間の具体的な目的を児童に示す。本単元における交流の目的は、以下の通りである。

第1時	伝記の読書経験を紹介し合い、学習の見直しを持つための交流
第2時	「百年後のふるさとを守る」を読んだ感想を伝え合い、自分の考えを広げるための交流
第4時	同じ「心ひかれた一言」を選んだ友だちと、根拠や考えを伝え合い、考えを広げ深めるための交流
第5時	「心ひかれた一言」から、自分の生活や生き方について考えたことをペアで伝え合い、別の視点で考えたり、意見や助言を受けたりして、自分の考えを見つめ直すための交流
第6時	「儀兵衛のここがすごいで表」を基に、自分の生活や生き方について考えたことをグループで伝え合い、自分の考えを広げ深めるための交流
第9時	自分が選んだ伝記の「この人のここがすごいで表」を基に、自分の生活や生き方について考えたことをグループで伝え合い、意見や助言を受けて、自分の考えを見つめ直すための交流
第10時	代表児童の推薦文の発表を聞き、確認したり参考にしたりして、学習のまとめをするための交流

【本単元における交流の目的】

これらの目的を、交流する前に児童へ伝えることにより、児童が目的を持って交流に臨めるようにし、学習効果を高めていく。

7. 評価について

従来から、指導と評価の一体化といわれてきたが、実際には、評価の方法や評価のタイミング、「目指す児童の姿」（評価規準）に満たない児童への手立ての方法と時期等が明確でないことが少なくなかった。

そこで、本単元では、児童が主体的に学び、自分の考えを明確にしなが読む力を身に付けていけるようにするために、形成的評価や総括的評価を「主体的な学びを喚起する評価」「一時間の学びに対する評価」「単元を貫く言語活動に対する評価」の三つに分けて行っていく。「主体的な学びを喚起する評価」は従来の自己評価として意味合いが強く、「一時間の学びに対する評価」の中の自己評価を活用する。具体的には、一時間ごとに自分の学びに対する評価を付箋に書かせ、次時の学習の導入時に紹介する。「一時間の学びに対する評価」は、いわゆる形成的評価で、単元の出口の言語活動のためにどれだけ力が付いたかを評価するものである。各時間の指導・学習内容により、教師からの評価だけでなく、相互評価や自己評価なども取り入れる。「単元を貫く言語活動に対する評価」では、第一・二次で、第三次の言語活動を意識して学習したことに対する評価（主として、情意面の評価）を行い、第三次で『評価をするときに基とするもの』を用いた言語活動に対する評価（総括的評価）を行う。

「一時間の学びに対する評価」や『評価をするときに基とするもの』を用いた言語活動に対する評価を行う際、「目指す児童の姿」や「評価をするときに基とするもの」に満たない児童に対する手立ての内容とその時期を明確にし、評価を指導につなげていく。このような評価を行うことで、指導と評価を一体化させ、主体的な学びを喚起するとともに、付けたい力を身に付けさせていきたい。

	第一次		第二次				第三次				
	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時	第9時	第10時	
単元を貫く 言語活動を 評価する	モデリング 「評価をする ときに基とする もの」										「評価をするときに基とするもの」を用いた 言語活動に対する評価(総括的評価:「読む こと」の学習を生かした表現の内容)
主体的な学 びを喚起 する評価		前時の自己 評価を紹介 ↓ 学習意欲の喚 起	教師からの評価だけでなく、児童が他の児童のよさに目 を向けて感想を書いた場合は、意図的に紹介する。								
一時間の学 びに対する 評価	本時の目標 発表のモデルを 見たり伝記を読 んだ経験や感想 を発表し合っ たりする活動を通 して、単元の学習 に対して、興味や 見通しを持つ としている。 評価 ・教師からの評価 (態度・発言・付箋) ・自己評価 (付箋)	本時の目標 範読を聞いて感 想を交流し、自 分の生活・生き方と 関わる視点を持 つことができる。 評価 ・教師からの評価 (態度・発言・記述 内容) ・自己評価 (付箋)	本時の目標 全文を通読し、大 体の内容と文章 構成をとらえる ことができる。 評価 ・教師からの評価 (態度・発言・記述 内容) ・自己評価 (付箋)	本時の目標 自分の生活や生 き方との関わり を意識しながら 伝記を読み、「心 ひかれた一言」を 見つけることが できる。 評価 ・教師からの評価 (態度・発言・儀 兵衛のここがす ごいで表) ・自己評価 (付箋)	本時の目標 全体把握して読 み、「心ひかれた 一言」を基に、自 分の生活や生き 方についての考 えをまとめるこ とができる。 評価 ・教師からの評価 (態度・発言・儀 兵衛のここがす ごいで表) ・自己評価 (付箋)	本時の目標 儀兵衛の生き方 や考えについて 自分の知識や経 験と関係付けな がら考えたこと を紹介し合い、考 えを広げたり深 めたりすること ができる。 評価 ・教師からの評価 (態度・発言・記 述内容) ・相互評価 (交流) ・自己評価 (付箋)	本時の目標 自分で選んだ伝 記を読み、被伝者 の「心ひかれた一 言」を選び出すこ とができる。 評価 ・教師からの評価 (態度) ・自己評価 (付箋)	本時の目標 これまでの学習 を基に、自分が取 り上げた人物に ついて「この人の ここがすごい 表」にまとめるこ とができる。 評価 ・教師からの評価 (態度・この人の ここがすごい 表) ・自己評価 (付箋)	本時の目標 「この人のここ がすごい表」を 評価し合い、自 分の考えを広げ たり深めたりで きる。 評価 ・教師からの評価 (態度・発言・こ の人のここがす ごいで表) ・相互評価 (交流) ・自己評価 (付箋)	本時の目標 読んだ伝記や友 だちの「この人の ここがすごい 表」の紹介を基 に、自分の生活や 生き方について の考えを広げ たり深めたりする とともに、今後の 読書に対する意 欲を持つ。 評価 ・教師からの評価 (態度・発言・記 述内容) ・自己評価 (付箋)	

【本単元における三つの評価】

- ・「主体的な学びを喚起する評価」 …… 「一時間の学びに対する評価」の児童の自己評価を次時の導入時に紹介
- ・「一時間の学びに対する評価」 …… 単元の出口の言語活動のためにどれだけ力が付いたか評価 (指導者・児童)
- ・「単元を貫く言語活動に対する評価」 …… 言語活動を意識して学習したことに対する評価、総括的評価

* 「主体的な学びを喚起する評価」では、各時間の学習課題に対応した自己評価を取り上げる。

(例) **学習課題例**⇒第4時…「百年後のふるさとを守る」を読んで、自分にとっての「心ひかれた一言」を見つけよう。

付箋に書かれたAさんの自己評価(例)⇒私の「心ひかれた一言」は、「自分たちの手で、子孫たちまで安心してくら
せる村を作るんだ」のところ。なぜその部分を選んだのか、みんなの理由を聞いてみると、それぞれちがって
いて、同じところでも思うことがちがっていて、儀兵衛の思いについてたくさん考えることができました。

※第5時のはじめに、学習課題に対応した自己評価を、「Aさんは、『心ひかれた一言』を選んだ理由が人によって違うこと
に気付いたんだね。その理由を聞いて、自分の考えを深めることができたんだね。今日は、『心ひかれた一言』を基にして、
自分の生活や生き方について考えていこう！」などと、指導者がコメントとともに紹介する。

*評価に関して、基準に満たない児童に対して、「一時間の学びに対する評価」では、本時の目標に照らして以下のような手立てを講じる。

評価のタイミング 手立ての時期	指導者が見取った児童の つまずきの原因	手立ての例
学習活動中であれば、その場で手立てを講じる。	既習の内容が定着していない	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容について確認する。 「前の学習で、〇〇のやり方について学習したね。そのやり方を使って、考えてごらん。」 既習の内容が分かるようなメモを作成し、児童に渡す。
学習後であれば、次時の学習活動前や学習中に手立てを講じる。	学習課題を意識できていない	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を確認する。 「今日の学習課題は、〇〇だったね。そのことを意識して△△のことを考えてみると、どうなるかな？」 「〇〇の学習活動で、どんなことをはっきりさせるんだったかな？」 「〇〇と考えているのは、どうして？」
	学習の見通しを持っていない	<ul style="list-style-type: none"> 単元全体、各時間の学習の見通しを持てるよう助言する。 「この活動が終わったら、何の活動をするつもりをしている？」 「次の活動では、〇〇をすることになっていたね。今やっている活動は、〇〇にどんな風に役立つかなあ。」 「先生に、用意しておいてほしいものは、ありますか？」
	自分の考えを持っていない	<ul style="list-style-type: none"> 児童の考えを整理し、考えが持てるよう助言する。 「どんな目的で、〇〇の活動をしているんだったかな？」 「お話の中には、どんな出来事が書かれていたかな？」 「お話の中には、〇つの出来事が書かれていたね。どれが心に残ったの？」 「〇〇さんは、どんなこと考えているか、聞いてごらん。」

(例) 第4時…自分の生活や生き方との関わりを意識して全体を通して読み、儀兵衛の生き方について、根拠を明らかにしながら自分の考えを持つことができる。〔読〕★記述内容

Cさんの選んだ「心ひかれた一言」例

⇒「なんとしても、堤防を完成させる。」

Cさんの「心ひかれた一言」を選んだ理由の記述例

⇒儀兵衛が、堤防を完成させようと決意したところに、心ひかれました。

Cさんの記述は、「心ひかれた一言」を選んだ根拠になっていないので、なぜその「心ひかれた一言」を選んだのかが示せるように指導します。また、根拠として文中の言葉が活用できるよう、3・4年の学習内容にさかのぼって、引用や要約の仕方も確かめます。

指導例

「Cさんは、ここを『心ひかれた一言』として選んだんだね。選んだ理由に『堤防を完成させようと決意したところ』と書いているけど、伝記の中のどの部分に書いてあるかな。そうそう、〇〇ページに書いてあるね。儀兵衛は、なぜそんな決意をしたんだろうね。」(決意した理由について児童に考えさせてから)「そうそう、△△ページに書いてあるね。その部分をかぎかっこを使って抜き出してから、自分の考えを書いてごらん。」

*同様に、「単元を貫く言語活動に関する評価」の中の『評価をするときに基とするもの』を用いた言語活動に対する評価』に対する手立てについては、8.「評価をするときに基とするもの(教師用)」で述べる。

8. 「評価をするときに基とするもの (教師用)」

* 尺度3が「目指す児童の姿」(評価規準)のBにあたる。

尺度	「この人のここがすごい表」の内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・「出来事を語る部分 (物語のように表現されたところ)」「事実の説明」「筆者の考え」の部分関係を的確にとらえている。 ・自分の視点(「人とのつながり」「ふるさとへの思い」など)から、「心ひかれた一言」を選び、根拠を明確に示している。 ・書かれている内容と、自らの生活、生き方を関係付けて考えたことが明確に分かるように「この人のここがすごい表」を書いている。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「出来事を語る部分 (物語のように表現されたところ)」「事実の説明」「筆者の考え」が書かれていることを理解している。 ・自分の視点(「人とのつながり」「ふるさとへの思い」など)から、「心ひかれた一言」を選んでいる。 ・書かれている内容と、自らの生活、生き方を関係付けて考えたことを「この人のここがすごい表」に書いている。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「出来事を語る部分 (物語のように表現されたところ)」「事実の説明」「筆者の考え」が書かれていることを理解し、その内容の大体をとらえているが、被伝者と自分の生活や生き方の関わりを考慮することができない。 ・「心ひかれた一言」を書いているが、根拠が明確に示せない。 ・書かれている内容と、自らの生活、生き方を関係付けて考えることができない。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・文中の「出来事を語る部分 (物語のように表現されたところ)」「事実の説明」「筆者の考え」の整理ができていない。 ・被伝者と自分の生活や生き方の関わりを考慮することができない。 ・「心ひかれた一言」を書くことができない。
0	<ul style="list-style-type: none"> ・無解答

*ここで示した「評価をするときに基とするもの」は、指導者が「単元を貫く言語活動に対する評価」を行うときに活用するものである。指導と評価の一体化を図るためには、児童と指導者がこの内容の観点を共有しておくことが重要である。このことで、児童が単元を貫いたためあてを持つことができる。そのため、第一次で、指導者が作成したモデリングの提示をするときに、自分が選んだ伝記でモデルのような活動するにはどんな力が必要か、児童が考えて全体交流し、教師が児童の言葉でまとめるようにする。

*『「評価をするときに基とするもの」を用いた言語活動に対する評価』に関して、基準に満たない児童に対して、以下のような手立てを行う。

< 3に達していない児童に対して >

評価のタイミング	手立ての時期	手立ての内容
第8時の学習活動中	第8時の「この人のここがすごい表」を書くとき	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ伝記について、どのようなことが書かれていたか、どう考えたかを聞いて児童の考えを整理し、自分との関わりが見出せるよう助言する。 ・今後の自分の生活に役立てていこうと思ったところはどんなところか聞く。
学習後	第9時の「この人のここがすごい表」を修正するとき	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動中に支援した内容を基に助言する。修正点がある場合は、書き直すように助言する。(なお、修正点は、児童の書いた文章を基に、個に応じた内容になる。)

< 2、1に達していない児童に対して >

評価のタイミング	手立ての時期	手立ての内容
第8時の学習活動中	第8時の「この人のここがすごい表」を書くとき	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ伝記について、どのようなことが書かれていたか、どう考えたかを聞いて児童の考えを整理し、自分との関わりが見出せるよう助言する。 ・今後の自分の生活に役立てていこうと思ったところはどんなところか聞く。 ・「心ひかれた一言」を一緒に考える。
学習後	第9時の「この人のここがすごい表」を修正するとき	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動中に支援した内容を基に助言する。修正点がある場合は、書き直すように助言する。(なお、修正点は、児童の書いた文章を基に、個に応じた内容になる。)

次	時	学習活動	評価	日常的な言語活動
○		「言語生活と学びの接続」 ◆伝記を読む。 ○児童が関心を持った人物について取り上げて話題とし、考えたことや思ったことについて自由に話し合う。	・伝記に関心を持ち、進んで読書しようとしている。〔関〕★態度、発言	伝記を読む
一	①	◆単元全体の学習課題を設定し、学習の見通しを持つ。 自分が好きな伝記の本から「心ひかれた一言」を紹介し、「この人のここがすごいでショー」を開こう。 ○教師が取り上げた人物についての「この人のここがすごいで表」の紹介の例(モデル)を見て、目指す姿のイメージをつかむ。 ○「この人のここがすごいで表」の例から、単元の学習の流れと「評価をするときに基とするもの」を確認する。 ○単元全体の学習の流れの大体を知る。 ◆伝記を読んだ経験や感想を発表し合い、伝記を読むことに興味を持つ。	・指導者が取り上げた人物についての「この人のここがすごいで表」の紹介の例(モデル)から、学習の見通しを持つようとしている。〔関〕★態度、発言、付箋 ・伝記を読んだ経験や感想を発表しようとしている。〔関〕★態度、発言 ・伝記に興味を持ち、今後の並行読書に対する意欲を高めている。〔関〕★態度、発言、付箋	
	②	◆「百年後のふるさとを守る」を読み、感想を交流する。 ◆範読を聞いて想起した、これまでの自分の生活や生き方(関心あること、今の生活で大切にしてきたこと、将来のことなど)を書きまとめる。	・文章を読んで、儀兵衛の生き方について感想を持っている。〔読〕★態度、発言、記述内容 ・儀兵衛の生き方と、自分の生活・生き方をつなぐ視点を持つことができる。〔読〕態度、記述内容	
二	③	◆「百年後のふるさとを守る」を読み、文章構成を理解し、内容の大体をつかむ。 ○文章の構成が4つに分かれていることを確認する。 ○文中に「出来事を語る部分(物語のように表現されたところ)」「事実の説明」「筆者の考え」が書かれていることを読み取り、伝記の特徴をつかむ。	・場面ごとに内容の大体を読み取ることを目的にして、文章の内容を押さえている。〔読〕★態度、発言、記述内容 ・「出来事を語る部分」「事実の説明」「筆者の考え」という文章の種類を読み取っている。〔読〕★態度、発言、記述内容	
	④	◆「百年後のふるさとを守る」から、「心ひかれた一言」を見つける。 ○自分の生活や生き方との関わりを意識しながら、「心ひかれた一言」を見つける。 ○なぜその一言を取り上げたか、根拠となる部分を明らかにする。 ◆「心ひかれた一言」とその根拠となる部分について、同じ言葉を選んだ友だちと意見交流する。	・全体を通して読み、儀兵衛の生き方について、根拠を明らかにしながら自分の考えを持つことができる。〔読〕★態度、発言、「儀兵衛のここがすごいで表」 ・意見交流をしたことを基に、儀兵衛の生き方についての自分の考えを広げたり深めたりすることができる。〔読〕★態度、発言、「儀兵衛のここがすごいで表」	
	⑤	◆「百年後のふるさとを守る」を読んで、自分が選んだ「心ひかれた一言」と、その根拠をまとめた内容を基に、自分の生活や生き方について振り返る。 ○自分が選んだ「心ひかれた一言」と、自分の生活や生き方を関係付けて考える。 ◆「心ひかれた一言」とその根拠となる部分から、自分の生活や生き方について考えたことを、ペアで意見交流する。	・自分の生活や生き方との関わりを意識して全体を通して読み、儀兵衛の生き方について、根拠を明らかにしながら自分の考えを持つことができる。〔読〕★態度、発言、「儀兵衛のここがすごいで表」 ・意見交流をしたことを基に、儀兵衛の生き方についての自分の考えを広げたり深めたりすることができる。〔読〕★態度、発言、「儀兵衛のここがすごいで表」	

	⑥	<p>◆「儀兵衛のここがすごいでショー」を開く。</p> <p>○「心ひかれた一言」を紹介するとともに、その根拠や自分の生活や生き方との関わりから考えたことを交流し合う。</p> <p>○「儀兵衛のここがすごいでショー」をして、考えたことや思ったことを書く。</p> <p>◆友だちの発表から、広げ深めた考えを記述し、全体で交流する。</p>	<p>・「儀兵衛のここがすごいで表」を紹介し合って評価したことや考えたことを交流し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。〔関〕★態度、発言、付箋</p> <p>・交流を通して考えたことを紹介し合い、自分の生活や生き方についての考えを広げたり深めたりしている。〔読〕★態度、発言、記述内容</p>
三	⑦	<p>◆伝記を読んで、取り上げた人物の「心ひかれた一言」を選ぶ。</p> <p>○なぜその言葉が心に残ったのか、根拠となる部分を明らかにする。</p> <p>○自分の生活や生き方との関わりから考えをまとめる。</p>	<p>・「評価の観点」を知り、進んで伝記を読もうとしている。〔関〕★態度</p>
	⑧	<p>◆取り上げた「心ひかれた一言」を基に、「この人のここがすごいで表」を作る。</p> <p>○第二次の学習を基に、その言葉が心に残った根拠の部分をまとめる。</p> <p>○被伝者の思いや生き方について自分が考えたことをまとめる。</p> <p>○自分の生活や生き方を見つめ直して考えたことを書く。</p>	<p>・「評価の観点」を知り、「この人のここがすごいで表」を進んで書こうとしている。〔関〕★態度</p> <p>・自分が着目した視点から「心ひかれた一言」を選び、その根拠をまとめることができる。〔読〕★「この人のここがすごいで表」</p> <p>・取り上げた人物と自分に関わらせてとらえ、生活や生き方について考えることができる。〔読〕★「この人のここがすごいで表」</p>
	⑨	<p>◆「この人のここがすごいでショー」をグループで開く。</p> <p>○「この人のここがすごいで表」を基に、「心ひかれた一言」、その根拠となる部分を紹介し合う。</p> <p>○取り上げられている人物の生き方や、自分の生活や生き方について考えたことを話し合う。</p> <p>◆話し合いで深まった考えを書きまとめる。</p>	<p>・「この人のここがすごいで表」を読み比べて評価したことや考えたことを紹介し合い、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。〔関〕★態度、発言、付箋</p> <p>・相互評価や意見交流を基に、内容や表現方法、自分の生活や生き方についての考えを広げたり深めたりしている。〔読〕★態度「この人のここがすごいで表」</p>
	⑩	<p>◆代表児童の「この人のここがすごいでショー」の紹介を聞く。</p> <p>○「心ひかれた一言」と根拠となる部分の関連や、自分の生活や生き方をどのように見つめ直しているか、確かめる。</p> <p>◆読んだ伝記や友だちの「この人のここがすごいで表」を基に、自分の生活や生活について考えたことをまとめる。</p> <p>◆読んでみたい伝記について話し合う。</p>	<p>・「この人のここがすごいで表」を読み比べて評価したことや考えたことを紹介し合い、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。〔関〕★態度、発言</p> <p>・意見交流を基に、自分の生活や生き方についての考えを広げたり深めたりしている。〔読〕★態度、記述内容</p> <p>・学習経験を生かして、これからも伝記の読書を進んでしようとしている。〔関〕★付箋</p>

10. 各時間の学習展開例

(1) 第1時の展開例 (1/10)

ア 目標

発表のモデルを見たり伝記を読んだ経験や感想を発表し合ったりする活動を通して、単元の学習に対して、興味や見通しを持つようとしている。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	1. 単元全体の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分が好きな伝記の本から「心ひかれた一言」を紹介し、「この人のここがすごいでショー」を開こう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 「この人のここがすごいで表」について興味を持たせるために、目標としている人物やあこがれている人物を想起させる。 第三次で、「この人のここがすごいでショー」をすることを合わせて伝える。 	
まなぶ	2. 単元の学習について見通しを持つ。 (1) 指導者が取り上げた人物についての「この人のここがすごいで表」の例(モデル)を見て、目指す姿のイメージをつかむ。 ・指導者が作成した「この人のここがすごいで表」の例(モデル)を拡大して提示し、紹介する。 (2) 「この人のここがすごいで表」の例から、単元の学習の流れと「評価をするときに基とするもの」を確認する。 <div style="border: 2px solid green; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">主体的な学び</div>	<ul style="list-style-type: none"> 伝記の特徴について押さえる。 これからの学習の見通しを持たせるために、指導者が取り上げた人物についての「この人のここがすごいで表」の例(モデル)を示す。 「この人のここがすごいで表」の例では、「心ひかれた一言」と、その根拠となる部分を要約した内容、自分の生活や生き方について考えたことを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者が取り上げた人物についての「この人のここがすごいで表」の例(モデル)から、学習の見通しを持つようとしている。[関] ★態度、発言、付箋
いかす	3. 伝記を読んだ経験や感想を発表し合い、伝記を読むことに興味を持つ。 (1) 今までに読んだ伝記について紹介し、どのような感想を持ったか紹介し合う。 (2) 読んで影響を受けたことがあれば、交流する。 <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">目的のある交流</div> 4. 本時の学習を振り返る。 (1) これからがんばっていききたいことや知りたいことなど、思ったことや考えたことを付箋に書く。 (2) 感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 伝記の本を、引き続き並行読書していくことを告げる。 教科書P. 72~73に、被伝者の言葉とともに伝記が紹介されていることを伝える。 今後の学習への意欲につながるよう、時間があれば、本時の学習についての感想を発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝記を読んだ経験や感想を発表しようとしている。[関] ★態度、発言 伝記に興味を持ち、今後の並行読書に対する意欲を高めている。[関] ★態度、発言、付箋



【授業改善のポイント】

この時間の

主体的な学び

「評価をするときに基とするもの」の観点を、児童と指導者が共有しておくことは大切です。児童に単元を貫いためあてを持たせることで、どのような力を身に付けていけばよいのかが分かりやすくなります。モデルのような活動をするにはどんな力が必要か、児童が考える機会を設け、それを指導者が児童の言葉でまとめ、教室内の見えるところに掲示しておきましょう。

- ① 人物の生き方を、自分の生活・生き方と関わる視点(努力、思いやり、人とのつながりなど)を持って読む力を付けよう。
- ② 「物語のように書かれているところ」「出来事が書かれているところ」「筆者の考え」が書かれているところを読み取る。
- ③ 「心ひかれた一言」を紹介するとき、根拠になる部分を明らかにする力を付けよう。

*この3つができていたら○です。「この人のここがすごいでショー」で、聞き手が「なるほど!」と思えたら◎です。

目的のある交流

伝記の読書経験を紹介し合い、学習の見通しを持つための交流

この時間の「交流タイム」では、伝記の読書経験を交流し、読書意欲と今後の学習に対する意欲を高めることがねらいです。読書経験から自分の生活・生き方に影響を受けたことを話す児童がいれば、話を広げておくと、今後の学習活動に役立つでしょう。

(2) 第2時の展開例 (2/10)

ア 目標

範読を聞いて感想を交流し、自分の生活・生き方と関わる視点を持つことができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	<p>0. 「今日の心ひかれた一言」の紹介を聞く。</p> <p>1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>全文を読んで、儀兵衛の生き方で心に残ったところを紹介し合おう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P72～73の人物の言葉を紹介し、その言葉に関わる人物の生き方について紹介し、児童に感じたことを発表させる。 前時の振り返り(付箋)を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。 題名から内容について想像させ、読後の感想を持ちやすくしておく。 	
まなぶ	<p>2. 教師の範読を聞き、感想を交流する。</p> <p>(1) 教科書(P. 60～70)を読む。</p> <p>(2) 感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 儀兵衛の生き方で心に残ったことを全体で交流する。 <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 150px;"> <p>目的のある 交流</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 読む前に、儀兵衛の生き方で心に残ったところについて交流することを予告しておく。 適当なところで区切って、難語句や歴史的な背景について補説しながら進める。 感想を根拠となる部分を示させながら発表させ、黒板に整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、儀兵衛の生き方について感想を持っている。〔読〕★態度、発言、記述内容
いかす	<p>3. 範読を聞いて想起した、これまでの自分の生活や生き方(関心あること、今の生活で大切にしてきたこと、将来のことなど)を書きまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書きまとめたことを、発表する。 <p>4. 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> この段階では、「あまり考えたことがない」「はっきりしない」といった状態も認めるようにする。 時間があれば、何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 儀兵衛の生き方と、自分の生活・生き方をつなぐ視点を持つことができる。〔読〕★態度、記述内容



【授業改善のポイント】

この時間の

目的のある
交流

「百年後のふるさとを守る」を読んだ感想を伝え合い、自分の考えを広げるための交流

この時間の「交流タイム」では、教材文を読んだ感想を全体で交流します。多様な感想に触れ、考えを広げることが一番のねらいです。

- 出てきた感想がどのような部分を根拠として出てきたものか、児童とやりとりしながら指導者が整理していくと、根拠を示す意識が高まります。また、同じ部分を根拠としていても、違う感想を持つことがあることに気付く児童もいるでしょう。

(3) 第3時の展開例 (3/10)

ア 目標

全文を通読し、大体の内容と文章構成をとらえることができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	0. 「今日の心ひかれた一言」の紹介を聞く。 1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 全文を読んで、文章の構成と内容の大体をつかもう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P72～73の人物の言葉を紹介し、その言葉に関わる人物の生き方について紹介し、児童に感じたことを発表させる。 前時の振り返り（付箋）を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。 文章の構成について考えながら読むことを伝え、全文を読むときの見通しを持たせる。 	
まなぶ	2. 全文を音読し、文章構成を確認し、内容の大体をつかむ。 (1) 全文を、段落ごとに分担しながら音読する。 <ul style="list-style-type: none"> 段落番号を確認する。 (2) 文章のまとまりが4つに分かれていることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 4つのまとまりを、段落番号を用いて整理する。 (3) 4つのまとまりには、それぞれどのようなことが書かれているかを読み取る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 全体把握して読む </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 1…「稲むらの火」の始まりの部分の引用 2…五兵衛のモデルとなった儀兵衛の生い立ちと大地震の際の行動 3…大地震後、村人たちと大堤防を完成させるまでの儀兵衛の思いと行動 4…儀兵衛の業績の意味について、筆者による解説 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 誤読部分について訂正を加える。 段落番号の間違いがないように確認する。 場面の始めに数字が入っていることを押さえる。 児童から出された意見を基にして整理しまとめる。 1の「稲むらの火」は、5年生の道徳の副読本にも取り上げられていることを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面ごとに内容の大体を読み取ることを目的にして、文章の内容を押さえている。[読] ★ ★態度、発言、記述内容
いかす	3. 文中に「出来事を語る部分（物語のように表現されたところ）」「事実の説明」「筆者の考え」が書かれていることを確認し、伝記の特徴をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> それぞれに該当する部分をいくつか見つける。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 全体把握して読む </div> 4. 本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「出来事を語る部分（物語のように表現されたところ）」「事実の説明」「筆者の考え」に該当する部分を、いくつか発表させる。 時間があれば、何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「出来事を語る部分（物語のように表現されたところ）」「事実の説明」「筆者の考え」という文章の種類を読み取っている。[読] ★ ★態度、発言、記述内容



【授業改善のポイント】

この時間の「まなぶ」の

全体把握して読む

この時間の「まなぶ」の「全体把握して読む」では、教材文全体の場面構成をとらえ、内容の大体をつかむことが目的です。場面ごとに番号がついているので、4つのまとまりをつかむのは容易にできると考えられます。ここでは、大体をつかむのが目的なので、具体的な内容に深入りせず、どのようなことが書かれているかを出させ、指導者がまとめます。

この時間の「いかす」の

全体把握して読む

この時間の「いかす」の「全体把握して読む」では、前時の学習を想起させた上で、文中の「事実の説明」「筆者の考え」が書かれている部分を確認していきます。ただし、本文「1」は引用部分であることを押さえ、2～4場面を中心に押さえていきましょう。本文「2」…「事実の説明」が多い。本文「3」…「事実の説明」をしながら、その中に「出来事を語る部分（物語のように表現されたところ）」が取り入れられている。本文「4」…ほとんどが「筆者の考え」である。

(4) 第4時の展開例 (4/10)

ア 目標

自分の生活や生き方との関わりを意識しながら伝記を読み、「心ひかれた一言」を見つけることができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	0. 「今日の心ひかれた一言」の紹介を聞く。 1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「百年後のふるさとを守る」を読んで、自分にとっての「心ひかれた一言」を見つけよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P72～73の人物の言葉を紹介し、その言葉に関わる人物の生き方について紹介し、児童に感じたことを発表させる。 前時の振り返り（付箋）を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。 	
まなぶ	2. 「百年後のふるさとを守る」を自分で読み、「心ひかれた一言」を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の生活や生き方との関わりを意識しながら、「心ひかれた一言」を見つける。 なぜその一言を取り上げたか、根拠となる部分を明らかにする。 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;">全体把握して読む</div> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分の考えを明確にする場面</div>	<ul style="list-style-type: none"> 「儀兵衛のここがすごいで表」を作って、「儀兵衛のここがすごいでショー」を開くことを確認する。 「儀兵衛のここがすごいで表」に「心ひかれた一言」と、その根拠となる部分をまとめて書くよう指導する。 自分と関わらせて考えやすくなるように、児童の実態に応じて既習事項を基にしたヒントを提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 〇〇などきに、同じ気持ちになったこと、あるある！ 〇〇について、考えるきっかけになった！ <p style="text-align: right;">など</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 全体を通して読み、儀兵衛の生き方について、根拠を明らかにしながら自分の考えを持つことができる。[読] ★態度、発言、「儀兵衛のここがすごいで表」
いかす	3. 「心ひかれた一言」とその根拠となる部分について、同じ言葉を選んだ友だちと意見交流する。 <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80px;"> 目的のある 交流 </div> <ul style="list-style-type: none"> 交流して考えたことを基に修正する。 4. 学習のまとめをし、本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ言葉を選んだ友だちが大勢いる場合は、2人組や3～4名の小グループで話し合わせる。 選んだ言葉に合わせて、個に応じた指導や支援を行う。 時間があれば、何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見交流をしたことを基に、儀兵衛の生き方についての自分の考えを広げたり深めたりすることができる。[読] ★態度、発言、「儀兵衛のここがすごいで表」



【授業改善のポイント】

この時間の

全体把握して読む

自分の考えを明確にする場面

ここでは、自分の生活や生き方との関わりを意識しながら全文を通して読み、「心ひかれた一言」を見つけます。第2時で、範読を聞いて想起した自分の生活や生き方について書きまとめています。そのことと関連付けながら「心ひかれた一言」を本文中から探させるようにしましょう。その際、「心ひかれた一言」の裏付けとなる根拠について書かせるようにします。

例・「心ひかれた一言」…「なんとしても、堤防を完成させる。」

根拠…江戸の大地震で、自分の店が危機的状況にあるのに、広村からの信じて待つという内容の手紙をもらい、その村人からの期待に応える決断をしたところに、心ひかれました。

この時間の

目的のある
交流

同じ「心ひかれた一言」を選んだ友だちと、根拠や考えを伝え合い、考えを広げ深めるための交流

ここでは、「心ひかれた一言」と、その根拠を自分の言葉でまとめた内容について、同じ言葉を選んだ友だちと意見交流します。同じ「心ひかれた一言」を選んでいても、根拠の部分やまとめ方が違う場合があることや、本文中の言葉を基にしながら根拠を書きまとめる方法について交流することで、考えを広げ深めることがねらいです。

(5) 第5時の展開例 (5/10)

ア 目標

全体把握して読み、「心ひかれた一言」を基に、自分の生活や生き方についての考えをまとめることができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	0. 「今日の心ひかれた一言」の紹介を聞く。 1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 自分にとっての「心ひかれた一言」を基に、自分の生活や生き方について考えよう。	・教科書P72～73の人物の言葉を紹介し、その言葉に関わる人物の生き方について紹介し、児童に感じたことを発表させる。 ・前時の振り返り(付箋)を、意欲付けとなるコメントとともに何人が紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。	
まなぶ	2. 「百年後のふるさとを守る」を読んで、自分が選んだ「心ひかれた一言」と、その根拠をまとめた内容を基に、自分の生活や生き方について振り返る。 ・自分が選んだ「心ひかれた一言」と、自分の生活や生き方に関係付けて考える。 ・儀兵衛の行動や考え方で、自分もこうありたいと思うところを、自分の知識や経験と関係付けて「儀兵衛のここがすごいで表」に書きまとめる。 自分の考えを明確にする場面	・前時にまとめた「心ひかれた一言」と、その根拠の部分について振り返らせる。 ・「心ひかれた一言」とその根拠の部分の基に、自分もこうありたいと思った理由を、書くように助言する。 ・「心ひかれた一言」と今の自分の考え方や、これまでの経験と関係付けて考えるよう助言する。	・自分の生活や生き方との関わりを意識して全体を通して読み、儀兵衛の生き方について、根拠を明らかにしながら自分の考えを持つことができる。[読] ★態度、発言、「儀兵衛のここがすごいで表」
いかす	3. 「心ひかれた一言」とその根拠となる部分から、自分の生活や生き方について考えたことを、ペアで意見交流する。 目的のある交流 ・交流して考えたことを基に修正する。 4. 学習のまとめをし、本時の学習を振り返る。 ・付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。	・交流で出された意見を、「儀兵衛がしたこと」「儀兵衛の考え方」「筆者が考える儀兵衛の業績の意味」に整理しながらまとめる。 ・時間があれば、何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。	・意見交流をしたことを基に、儀兵衛の生き方についての自分の考えを広げたり深めたりすることができる。[読] ★態度、発言、「儀兵衛のここがすごいで表」



【授業改善のポイント】

この時間の

自分の考えを明確にする場面

ここでは、前時に選んだ「心ひかれた一言」とその根拠をまとめた内容を基に、自分の生活や生き方と関係付けて、考えをまとめます。儀兵衛の生き方から感じたことを、児童の生活や関心と接続することが大切です。

「心ひかれた一言」を基に、

- ・儀兵衛がしたこと(何を、どのように)
- ・儀兵衛の考え方

今の自分が

- ・ふだん考えていること
- ・実生活での体験
- ・読書体験
- ・持っている知識

今後の自分

- ・こうなりたい
- ・このようにしたい
- ・考えが変わった・深まった
- ・新しく知った
- ・初めて考えてみた

この時間の

目的のある交流

「心ひかれた一言」から、自分の生活や生き方について考えたことをペアで伝え合い、別の視点で考えたり、意見や助言をもらったりして、自分の考えを見つめ直すための交流

ここでは、「心ひかれた一言」とその根拠となる部分から、自分の生活や生き方について考えたことをペアで意見交流します。どのように生活や生き方と関係付け、考えをまとめているかについて交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることがねらいです。

自分とは違った言葉を「心ひかれた一言」としている友だちの意見を聞くことで、自分とは違った考えに触れることができます。また、同じ言葉を選んでいても、生活や生き方と関係付けた理由を伝え合うことで、そのとらえ方の違いに気付く児童もいるでしょう。交流での気づきを基にして、児童は自分の考えを見つめ直していきます。

(6) 第6時の展開例 (6/10)

ア 目標

儀兵衛の生き方や考えについて自分の知識や経験と関係付けながら考えたことを紹介し合い、考えを広げたり深めたりすることができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	0. 「今日の心ひかれた一言」の紹介を聞く。 1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「儀兵衛のここがすごいでショー」を開こう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P72～73の人物の言葉を紹介し、その言葉に関わる人物の生き方について紹介し、児童に感じたことを発表させる。 前時の振り返り(付箋)を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。 	
まなぶ	2. 「儀兵衛のここがすごいで表」を基に、「心ひかれた一言」を紹介するとともに、その根拠や自分の生活や生き方との関わりから考えたことを交流し合う。 <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin: 10px auto;">目的のある交流</div> (1) 「儀兵衛のここがすごいで表」を基に、「儀兵衛のここがすごいでショー」をする。 <ul style="list-style-type: none"> 四人程度をベースにしたグループで紹介し合う。 「心ひかれた一言」、その根拠をまとめたもの、自分の生活や生き方と関係付けて考えたことを紹介し合う。 「儀兵衛のここがすごいで表」に書かれた内容について思ったことや感じたことを話し合う。 (2) 「儀兵衛のここがすごいでショー」をして、考えたことや思ったことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> 「儀兵衛のここがすごいで表」を紹介し合っただけで感じたことや考えたことを「きらりカード」(付箋)に書くよう助言する。 友だちの発表を聞いて考えたことや思ったことを中心に記述するよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「儀兵衛のここがすごいで表」を紹介し合っただけで評価したことや考えたことを紹介し合い、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 〔関〕★態度、発言、付箋
いかす	3. 友だちの発表から、広げ深まった考えを、全体で交流する。 4. 本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「きらりカード」のやりとりを通して、自分の発表に対しての友だちの意見から考えたことや思ったことを紹介し合うよう助言する。 時間があれば、何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流を通して考えたことを紹介し合い、自分の生活や生き方についての考えを広げたり深めたりしている。〔読〕★態度、発言、記述内容



【授業改善のポイント】

この時間の

目的のある交流

「儀兵衛のここがすごいで表」を基に、自分の生活や生き方について考えたことをグループで伝え合い、自分の考えを広げ深めるための交流

ここでは、「儀兵衛のここがすごいで表」を基に、グループで「儀兵衛のここがすごいでショー」を行います。はじめに、「心ひかれた一言」を紹介します。その後、その根拠をまとめた部分、自分の生活や生き方について考えたことを紹介します。

「心ひかれた一言」に対する根拠のまとめは適切か、また、自分の生活や生き方と関係付けて考えた部分について、感じたことや考えたことを「きらりカード」(付箋)に書いて評価し合います。「きらりカード」を書いたり読んだりすることで、考えを広げ深めません。

(7) 第7時の展開例 (7/10)

ア 目標

自分で選んだ伝記を読み、被伝者の「心ひかれた一言」を選び出すことができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	<p>0. 「今日の心ひかれた一言」の紹介を聞く。</p> <p>1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>みんなに紹介したい人物の「この人のここがすごい表」を作るために、伝記を読んで「心ひかれた一言」を選び出そう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P72～73の人物の言葉を紹介し、その言葉に関わる人物の生き方について紹介し、児童に感じたことを発表させる。 前時の振り返り（付箋）を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。 並行読書など、今まで読んだ伝記の中から、みんなに紹介したい人物を取り上げることが出来る。 	
まなぶ	<p>2. 自分で選んだ伝記を読んで、「心ひかれた一言」を選ぶ。</p> <p>(1) 「この人のここがすごい表」の評価の観点を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><児童に示す評価の観点></p> <p>①人物の生き方を、自分の生活・生き方と関わる視点（努力、思いやり、人とのつながりなど）を持って読む力を付けよう。</p> <p>②「物語のように書かれているところ」「出来事が書かれているところ」「筆者の考え」が書かれているところを読み取ろう。</p> <p>③「心ひかれた一言」を紹介するとき、根拠になる部分を明らかにする力を付けよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 第1時で用いた人物についての「この人のここがすごい表」の例（モデル）を提示しながら、評価の観点を押さえることで、第二次で身に付けた読む力を自覚的に活用できるようにさせる。 評価の観点を意識しながら伝記を読むよう助言する。 	
いかす	<p>3. 評価の観点を意識しながら、自分が取り上げた人物の伝記を読む。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0; display: inline-block;"> <p>全体把握して読む</p> </div> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0; display: inline-block;"> <p>自分の考えを明確にする場面</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 伝記を読んで、「心ひかれた一言」を選ぶ。 なぜその言葉が心に残ったのか、根拠となる部分を明らかにする。 自分の生活や生き方との関わりから考えをまとめる。 <p>4. 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の観点を意識しながら読書するよう机間指導する。 「心ひかれた一言」や、根拠となる部分や自分の生活や生き方との関わりから考えたことは、ノートにメモするよう助言する。 儀兵衛の生き方や考えと共通するところがあれば、メモしておくよう助言する。 時間があれば、何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「評価の観点」を知り、進んで伝記を読もうとしている。[関] ★ 態度



【授業改善のポイント】

この時間の

全体把握して読む

自分の考えを明確にする場面

ここでは、評価の観点を意識しながら、自分が取り上げた人物の伝記を読みます。並行読書等での読書経験から選び出した伝記を、じっくりと読んで「心ひかれた一言」を選び出す時間です。「心ひかれた一言」を紹介するために根拠となる部分をまとめることは、自分の目的に応じて要旨をとらえる力を育てます。この時間にどっぷりと伝記の読書にひたらせ、「この人のこんなすごいところを紹介したい！」という気持ちを高めていきましょう。

(8) 第8時の展開例 (8/10)

ア 目標

これまでの学習を基に、自分が取り上げた人物について「この人のここがすごいで表」にまとめることができる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	0. 「今日の心ひかれた一言」の紹介を聞く。 1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 伝記を読んで、みんなに紹介したい人物の「この人のここがすごいで表」を作ろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P72～73の人物の言葉を紹介し、その言葉に関わる人物の生き方について紹介し、児童に感じたことを発表させる。 前時の振り返り（付箋）を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。 	
まなぶ	2. 自分が取り上げた人物の「この人のここがすごいで表」を書く。 (1) 「この人のここがすごいで表」の評価の観点を再確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <児童に示す評価の観点> ①人物の生き方を、自分の生活・生き方と関わる視点(努力、思いやり、人とのつながりなど)を持って読む力を付けよう。 ②「物語のように書かれているところ」「出来事が書かれているところ」「筆者の考え」が書かれているところを読み取ろう。 ③「心ひかれた一言」を紹介するとき、根拠になる部分を明らかにする力を付けよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 評価の観点を再確認し、第二次で身に付けた読む力を自覚的に活用できるようにさせる。 前時にモデルを示して確認しているので、本時では児童が「この人のここがすごいで表」を書く時間を多く確保するよう配慮する。 理由や根拠をまとめる際、自分と関わらせて考えをまとめられるよう、児童の実態に応じて第二次で用いた既習事項を基にしたヒントを活用させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「評価の観点」を知り、「この人のここがすごいで表」を進んで書こうとしている。[関] ★態度
いかす	3. 第二次で学んだことを基に、「この人のここがすごいで表」を書く。 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0; display: inline-block;">全体把握して読む</div> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0; display: inline-block;">自分の考えを明確にする場面</div> 4. 本時の学習を振り返る。 ・付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い、「心ひかれた一言」、その根拠となる部分や、自分の生活・生き方との関わりのまとめ方について個別に支援・指導する。 時間があれば、何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が着目した視点から「心ひかれた一言」を選び、その根拠をまとめることができる。[読] ★「この人のここがすごいで表」 取り上げた人物と自分を関わらせてとらえ、生活や生き方について考えることができる。[読] ★「この人のここがすごいで表」



【授業改善のポイント】

この時間の

全体把握して読む

自分の考えを明確にする場面

これまでの学習を生かし、自分が取り上げた人物の「この人のここがすごいで表」を書きます。評価の観点を再提示し、確認してから活動を始めます。

指導者のモデルだけでイメージを持ちにくい児童がいる場合には、教科書P75の例(少しまとめ方が違いますが)を活用して説明するとよいと思います。「人物の考え方を、自分の生活に生かそうとしている」例、「ふだんの自分の関心とつなげて読み、考えている」例が掲載されています。

(9) 第9時の展開例 (9/10)

ア 目標

「この人のここがすごい表」を評価し合い、自分の考えを広げたり深めたりできる。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	0. 「今日の心ひかれた一言」の紹介を聞く。 1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「この人のここがすごい表」を開こう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P72～73の人物の言葉を紹介し、その言葉に関わる人物の生き方について紹介し、児童に感じたことを発表させる。 前時の振り返り(付箋)を、意欲付けとなるコメントとともに何人か紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。 	
まなぶ	2. 「この人のここがすごい表」を紹介し合い、評価の観点に沿って評価(自己・相互)する。 <div style="text-align: center; border: 2px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;">目的のある 交流</div> (1) 自分の「この人のここがすごい表」を基に、「心ひかれた一言」を紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> 四人程度をベースにしたグループで紹介し合う。 互いの「この人のここがすごい表」について評価し合う。 取り上げられている人物の生き方や、自分の生活や生き方について考えたことを話し合う。 *評価の観点に沿って、友だちの「この人のここがすごい表」を評価する。 (2) 次時に全体発表する代表者を推薦する。	<ul style="list-style-type: none"> 紹介を始める前に、前時の評価の観点を確認する。 「この人のここがすごい表」を読んで感じたことや考えたこと、評価の観点に基づいた評価を付箋に書くよう助言する。 人物の生き方について感じたことや考えたことを書くとき、どのような視点から生き方をとらえたか明らかにするよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「この人のここがすごい表」を読み比べて評価したことや考えたことを紹介し合い、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。(関)★態度、発言
いかす	3. 話し合いで深まった考えを書きまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 評価の観点に沿って相互評価したことや、生き方について意見交流したことを基に、「この人のここがすごい表」を加筆修正する。 <div style="text-align: center; border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">自分の考えを明確にする場面</div> 4. 本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導し、加筆修正の仕方について個別に助言する。 時間があれば、何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相互評価や意見交流を基に、内容や表現方法、自分の生活や生き方についての考えを広げたり深めたりしている。〔読〕★態度「この人のここがすごい表」



【授業改善のポイント】

この時間の

目的のある
交流

自分が選んだ伝記の「この人のここがすごい表」を基に、自分の生活や生き方について考えたことをグループで伝え合い、意見や助言を受けて、自分の考えを見つめ直すための交流

ここでは、「この人のここがすごい表」を紹介し合います。第二次の「読むこと」の学習で学んだことを総合的に生かして相互評価し合います。児童には、提示してある評価の観点を意識しながら、評価し合うことを意識させましょう。友だちの「この人のここがすごい表」を読んで、自分の考えを明確にして伝え合います。

評価だけで終わらず、紹介された人物の生き方について思ったことや考えたこと、今後の生き方に役立てたいと感じたことまで話し合えると、より考えが広がり、深まります。

この時間の

自分の考えを明確にする場面

交流タイムの活動で広げ深まった考えを基に、「この人のここがすごい表」を加筆修正します。交流の中で得た、新たな視点から記事を付け加えたり、自分の生活・生き方について抱いた新しい思いを書き足したりしていきます。

(10) 第10時の展開例 (10/10)

ア 目標

読んだ伝記や友だちの「この人のここがすごい表」の紹介を基に、自分の生活や生き方についての考えを広げたり深めたりするとともに、今後の読書に対する意欲を持つ。

イ 展開

	学習活動	支援	評価
つかむ	1. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">読んだ伝記や友だちの「この人のここがすごい表」の紹介を基に、自分の生活や生き方について考えをまとめよう。</div>	・前時の振り返り（付箋）を、意欲付けとなるコメントとともに何人が紹介する。単元の中で、できるだけ多くの児童のものを紹介できるように配慮する。	
まなぶ	2. 学級全員で、代表者の「この人のここがすごい表」の紹介を聞く。 (1) 推薦された友だちの発表を聞く。 (2) 発表者のよかった点について、話し合う。	・評価の観点と照らし合わせ、よかった点について学級全体で話し合う。 ・紹介された人物の生き方と自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見つけ、共感するところや取り入れたいところを出し合う。 ・友だちの「この人のここがすごい表」のどの部分に着目したか、根拠となる部分を示すよう助言する。	・「この人のここがすごい表」を読み比べて評価したことや考えたことを紹介し合い、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。(関) ★態度、発言
いかす	3. 読んだ伝記や友だちの「この人のここがすごい表」を基に、自分の生き方や生活について考えたことをまとめる。 (1) 考えをまとめて書く。 <div style="border: 2px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;">自分の考えを明確にする場面</div> (2) 学級全体で考えを交流する。 <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;">目的のある交流</div> 4. 本時の学習を振り返るとともに、今後読んでみたい伝記について考える。 ・付箋に学習して分かったことや身に付いたこと、感想などを書く。	・誰のどのような生き方・エピソードから考えたことかを明らかにしながら書くよう助言する。 ・考えたことを、どのように今後の生活に生かすのか考えさせる。 ・儀兵衛や「この人のここがすごい表」で紹介した人物と、生き方や考え方に共通点がある人物の伝記を読むのも一つの方法であることを伝える。 ・時間があれば、何人かの感想を発表させ、次時からの学習への意欲付けをする。	・意見交流を基に、自分の生活や生き方についての考えを広げたり深めたりしている。〔読〕★態度、記述内容 ・学習経験を生かして、これからも伝記の読書を進んでしようとしている。(関) ★付箋



【授業改善のポイント】

この時間の

自分の考えを明確にする場面

目的のある交流

代表児童の推薦文の発表を聞き、確認したり参考にしたりして、学習のまとめをするための交流

第10時は、「まなぶ」の時間に代表者の「この人のここがすごいショー」を基にしながら、これまでの学習のまとめをしていきます。本単元の「読むこと」の目標は、次の通りです。

・自分の生活や生き方との関わりを意識して全体を通して読み、筆者が考える人物の業績の意味について、根拠を明らかにしながら自分の考えを持つことができる。(説明的文章の解釈)

このことを、代表者の「この人のここがすごい表」の内容と照らし合わせながら確認します。その上で、読んだ伝記や友だちの「この人のここがすごい表」を基に、自分の生活や生活について考えたことをまとめます。その後、考えを交流し、今後の生活に生かせるようにまとめます。

「儀兵衛のことがすいじで表」

五年 組 名前 ()

「心ひかれた一言」

Blank space for writing the selected sentence.

儀兵衛のかんたんな紹介

Blank space for writing a simple introduction of Heibeiwa.

「心ひかれた一言」を選んだ理由
(儀兵衛のしたこと、考え方を入れて書こう)

Blank space for writing the reason for selecting the sentence, including Heibeiwa's actions and thoughts.

今の生活や生き方とかかわらせて考えたこと

Blank space for writing about current life and how it relates to the selected sentence.

「儀兵衛とあの人物、したことや考え方に
ているぞ！」紹介コーナー

Blank space for the introduction corner about Heibeiwa and the person mentioned in the sentence.



「

）の心がすいずいぶ表」

五年

組 名前

（

）

「心ひかれた一言」

人物のかんたんな紹介

「心ひかれた一言」を選んだ理由
(その人がしたこと、考え方をに入れて書こう)

今の生活や生き方とかかわらせて考えたこと

人物の絵